



第4回 沖縄・^{びせ}備瀬



エコツアー開催

2007年9月6日(木)～9日(日)



センスオブアース恒例行事、沖縄エコツアーも今回で4回目。昨年からは備瀬の海で本格的なサンゴの成長観察を始めるなど、手づくりツアーならではの、私たち NPO スタッフの思いがたくさん盛り込まれています。今回は、ご家族で参加された高城さんに感想を寄せていただきました。

(写真:出発前、羽田空港で。ツアー参加のみなさん。)

沖縄が抱える “ジレンマ”

copywriter 高城 好男 (中台在住)

関東に大型の台風が迫るさなか、逃げるように沖縄へ立った一同。その見事な脱出劇に、罪悪感どころか痛快な気分を覚えてしまった沖縄エコツアー。

個人的な話として、沖縄への旅は2度目となる。だからこの沖縄が持つ特有の心地よさには、ある種の懐かしさもあった。しかし、今回のツアーは、前回訪れたときのような感動とは、また別の印象を教えてくれた。青い海、青い空、美味しい特産物、様々な観光地……こうした誰もが容易に感嘆できる沖縄とは違う、別の角度から見つめることで分かる、沖縄の人と自然が抱える2つのジレンマだった。初日、お土産の泡盛を持参してこれからお世話になる備瀬区長さんのもとへ訪れたとき、丁度お祭りの最中であつた村の人たちの表情が、硬いように感じられた。客人を迎えるような快活さがなかつたのである。

翌日の夜のミーティングで寺田先生から聞かされたのは、村の人たちの抱える相反する思い——外部の人間を受け入れなければならないという観念と、自分たちの領域を誰にも侵されたくないという意思であつた。これが1つ目のジレンマである。

自分たちの土地は自ら守りたいと願うのは、当然のことである。しかし豊かな暮らしのため、人を招かなければならない。

この話を聞いたとき、村の人々の態度が妙に納得できた。観光地を巡るだけでは気づくことのない、難しい心理である。彼らがこうした思いを抱えて我々と接触していることを考えると、さりげない挙動がありがたく思えてくる。



広大な沖縄の海と空とツアー参加者

2つ目のジレンマは、人の手が加えられた国営沖縄記念公園が訴える、自然の大切さである。

最終日の美ら海水族館には、とても感動できた。小刻みに泳ぐ小さく鮮やかな魚、悠々と遊泳する畏怖すべき巨大魚……。あらゆる生物が共存している海の偉大を知り、自然環境の素晴らしさと驚異を知ることができた。深海で見つかったゴミまで展示され、私達の罪深さを思い知らされもした。しかし、妙な違和感が残る。

館内には、世界一や世界初といった同水族館を称える文字が目立つ。水族館を出れば、公園の砂浜を覆うフェンスがやたらと目につく。そして気づく、ここが観光地であるということ。国営沖縄記念公園そのものが、自然の大切さをうたう、人工的な観光地なのだ。フェンス内の砂浜は、一見とても美しい。そこはいわば、囲われて守られた人工的で美しい砂浜である。とりわけ外側は、管理されていないゆえに心無い人たちに汚されてしまう天然の砂浜といったところか。どちらが自然の真理なのか、分らなくなる。

カヤックに**挑戦**。高城さん一家

単純に観光して回る楽しさもいい。今回のシュノーケリング初体験も、カヤック初体験もいい経験だった。ぜひまた挑戦したい。

けれども、そうした楽しきのすぐそばに、簡単には語りつくせない沖縄の内情があるのだということを知り、改めて沖縄の人々に、そして自然に、敬意を表すことができた。

促されるままに参加したツアーだったけれど、参加したことの手ごたえが、今も確かに残っている。



今年も、備瀬の海を大掃除。
きれいな海でもこんなにゴミが。

砂浜にたくさんの小さな足跡が。
間違いなく、子ガメが海に行った**跡**です。



エコツアー
—
フォトアルバム



豊作豊漁を祝う行事、
静かに生き神様に向かって踊ります。

みんな真剣、天久さん(書記さん)大城さん
のご指導で沖縄料理教室



シュノーケリングで
きれいな魚見たよ〜



秋の“渡り” 観察会 ～鳥たちは南の地をめざす～

10月7日

いたばし野鳥クラブと板橋区環境保全課 主催の観察会参加報告

空が一段と高くなると、秋の渡りの季節である。夏の間日本で繁殖していた鳥たちは、越冬のため次第に南の地を目指す時期だ。もちろん板橋の地も、彼らの通過点になる。

板橋区環境保全課の区民を対象とした「野鳥調査勉強会」と重ねた「いたばし野鳥クラブ」の観察会を開催したのは10月7日。秋晴れの好天に恵まれ、「赤塚城址」跡の林には約50人弱の野鳥好きが集まった。

毎年このエリアではツツドリ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エゾビタキ、ムシクイ類、そして上空では猛禽類のサンバやアマツバメなどが目視できるそうだ。

野鳥観察には根気が必要である。鳥たちはこちらの都合で現われてはくれないからだ。

野鳥クラブの代表である栗林さんを先頭にゆっくりと歩を進める。バッタ広場と呼んでいる広場からスタートしたのだが、野鳥観察には人数が多すぎるといことで2班に分かれ違うルートをとった。

この季節、木々にはまだ青々とした葉が充分ついているため、初心者にはなかなか鳥影を見つけることが出来ない。それでも栗林さんをはじめ野鳥クラブのメンバーは前方の木々を指差し、「あそこに●●がいます」と丁寧に教えてくれる。熟練の技である。



野鳥を見つけるとスコープをセッティング、いたばし野鳥クラブのメンバーが解説を加えてくれます

季節はずれの蚊の襲撃をうけながらも、一行は林の奥へと押し進んでいった。都内でもまだ自然が色濃く残るこのエリアは、鳥たちにとっては格好の憩いの場なのであろう。姿は見えなくてもいろいろな鳴き声があちこちから聞こえてくる。そのつど野鳥クラブの方々に名前を覚えてもらった。すぐに名前が出てくるようになるには、あとどれだけ観察会を経験しなければならないのだろう……。メンバーの武田さんが「初めのころはヒヨドリとムクドリの違いもわからなかったものさ」といって笑った。

好天に恵まれ、観察会には50人に近い参加者が集まりました



いたばし野鳥クラブ代表の栗林菊夫先生

今回観察したホトトギス



梢でたわむれる4～5羽のメジロを発見

すぐに名前がわかるのは観察していてもうれしいものである。先ほど見かけたホトトギスにしても教えてもらわなければわからなかったし、道すがら目にしたメジロですら、ともすればウグイスとってしまったかもしれない。この才能は長年の蓄積である。だから様々な学校から声をかけられ、出張授業にも出かけているらしい。榛名移動教室などにも同行するという。ふと、好奇心に満ちた瞳で鳥を探す子どもたちの姿が目につかんできた。

約2時間あまりの観察会。締めくくりは栗林さんの「野鳥レクチャー」で幕を閉じた。

天気もよく、オゾンたっぷりの場所を歩きながらの観察会に、参加者はみな満足げな表情を浮かべていた。今後もこのクラブの活躍に期待したい。



締めくくりはこの日に観察できた野鳥のおさらい

【後記】

観察会の後「いたばし野鳥クラブ」の方々から活動についてのお話を伺いました。入会の動機はさまざまですが、みなさんの発言からはアットホームな活動の様子が伝わってきました。ここでは細部にわたりご紹介できませんでしたが、本当にありがとうございました。

<いたばし野鳥クラブ>

設立：1987年
 構成員：140世帯（男女比1：2）
 活動：月2-3回、板橋を中心に全国的に展開。野鳥観察を主にした自然観察活動。行政との共同事業（野鳥調査活動）にも参画。区内外の小学校へ出張授業を多数こなす。

《各移動教室、出張授業のご相談などお気軽にお問い合わせください》
 連絡先：いたばし野鳥クラブ代表 栗林菊夫
 TEL /FAX03-3959-2027
 Mail : itabashi-wildbirds-club@jcom.home.ne.jp

<資料：板橋で見られる野鳥一覧>（板橋区環境保全課の資料より）

留鳥（板橋区内で1年中みられる鳥）	冬鳥（板橋区内で冬に見られる鳥）	夏鳥（板橋区内で夏に見られる鳥）	通過鳥（板橋区内で見られる渡り鳥）	外来種
水辺の鳥 アオサギ、イソシギ、ウミネコ、オオバン、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、ゴイサギ、コサギ、ダイサギ、ハクセキレイ、バン	アカハジロ、アメリカビドリ、イカルチドリ、オオジュリン、オオセグロカモメ、オオヨシガモ、オシドリ、オナガガモ、カンムリナイツブリ、キセキレイ、キンクロハジロ、クイナ、コガモ、シロチドリ、スズガモ、セグロカモメ、タンキ、クハバリ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、ホオジロガモ、ホシハジロ、マガモ、ユリカモメ、ヨシガモ	オグロシキリ、コアジサシ、コチドリ、ロシシキリ、ヨシゴイ	アマサギ、オオジシギ、オオハシシギ、キアシシギ、シマアジ、セグロセキレイ、ツリハシシギ、ムナグロ、メダイチドリ	ロジュケイ、ベニスズメ、ワカケホンセイインコ
丘の鳥 アオゲラ、オナガ、カワラヒワ、キジ、キンバト、コゲラ、シジュウカラ、スズメ、セッカ、チョウゲンボウ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒメアマツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ	アオジ、アカゲラ、アカハラ、アドリ、ウグイス、ウン、オオタカ、カケス、カシラダカ、キレンジャク、コガラ、シメ、シヨウビタキ、シロハラ、ツグミ、トラツグミ、ノスリ、ハヤブサ、ヒガラ、ヒレンジャク、ヒンズイ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、モス、ヤマガラス、ルリビタキ	イワツバメ、カツノク、ツバメ、ツミ	アオバズク、エソビタキ、オオルリ、キビタキ、コサメビタキ、コムクドリ、クサバ、センダイムシクイ、ツツドリ、ビタキ、マミチャジナイ、メボソムシクイ	

秋のいたばし、街の自然観察と
 バーベキューで気分もお腹も大満足

藤本和典先生と一緒に、
 赤塚城址の自然観察。
 昼は赤塚公園バーベQ。

11月10日(土) 9時 赤塚公園大噴水前に集合

会費：一人 400円

会員でない方のご参加も大歓迎。
 事前に必ず、センスオブアースへFAXまたはメールで、お申し込みください。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア